### 出企業に聞く

## 広告

# バイオ・循環型・グリーン経済を国家戦略に 持続可能な成長に資する進出企業に手厚い恩典

vol.3のテーマは、「バイオ経済 | 「循環型経済 | 「グリーン経済 | の考えを統合したBCG経済モデル。 タイの新たな国家戦略を概観するとともに、グローバル企業にとってのビジネスチャンスを考える。

### 生物多様性の強みを生かしつつ 環境保護と経済成長を両立する

BCG経済モデルとは、「バイオ経済」 「循環経済」「グリーン経済」の3つの 経済開発を統合した概念のこと。「バ イオ経済 | は生物資源の効果的な利用 を重視する経済活動、「循環経済」は 様々な資源の再利用を考慮する経済活 動、「グリーン経済」は地球環境に配慮 した持続可能な開発につながる経済活 動を指す。

タイは、米やパーム油、サトウキビ、 キャッサバといった農産物の世界的生 産国としてもよく知られている。BCG 経済モデルには、タイの強みである生 物多様性と天然資源を最大限に活用し ながら、科学・技術のイノベーション を通じて環境保全と経済成長を両立す る狙いがある。

2021年1月、タイ政府はBCG経 済を国家戦略モデルに据えると表明。 タイ独自の高付加価値経済への変革 を目指し、①食品・農業、②医療・健康、 ③エネルギー・素材・バイオ化学、④ 観光・クリエイティブ経済の4つを重 点分野と位置付けた。対象産業の国 内総生産(GDP)は11兆5.600億 円に上り、全体の21%を占める。そ れを今後5年間で14兆9.600億円 (全体の24%)へと引き上げる計画 だ。これらの指針は、日本の経済産業 省が策定した「2050年カーボン ニュートラルに伴うグリーン成長戦略し とも合致する。

#### BCG分野への関心高く 投資申請は前年比17%増

BCG政策の推進には、外国企業か らの技術導入や投資が欠かせない。タ イ投資委員会(BOI)では、バイオテク ノロジーや再生可能エネルギーの研究 開発、廃棄物・リサイクル関連など、 環境負荷の低減に貢献するBCG事業 者に対し、投資促進策を導入している。 BOIによれば、2020年のBCG分野 への投資奨励事業の申請額は3,903 億円と、前年比17%増加しており、 外国企業からの関心の高さがうかがえ る。

その一例が、バイオプラスチック産 業だ。タイは東南アジア諸国連合 (ASEAN) 地域におけるバイオプラス チック生産のリーダーであり、2015 年から2021年3月までにBOIが承認 したバイオプラスチック・バリューチェー ンに関するプロジェクトは21件。合計 投資額は1.054億円を超えている。

タイの主力セクターである自動車産 業は、電気自動車(EV)技術に移行し ている。EVはグリーン経済に合致す る分野のひとつであり、炭素排出量、 気候変動への輸送の影響、およびそ の他の環境問題を削減するための重 要なテクノロジーだ。BOIは、EV生 産および関連するサプライチェーンの 発展を加速するパッケージを刷新し、 乗用車、バス、トラック、オートバイ、 三輪車、船舶などあらゆる種類のEV をカバー。総投資額50億バーツ(17 0億円)以上のバッテリー式電気自動 車(BEV) 適格プロジェクトには、8年 間の法人所得税免除が与えられ、研 究開発を行う場合は1~3年間の延長 も可能になる。日本の各自動車メー カーもタイでハイブリッド車(HEV)な どの現地生産を始めており、今後の事 業展開が注目される。

自動車に限らず、タイでは多くの日 本企業がBCG 分野において活躍して いる。山形県に本拠を構えるバイオベ ンチャー企業のSpiber (スパイバー) は、化石資源に依存しない、環境性に 優れた新素材の製造をタイ工場で進め ている。Spiberは日本で数少ないユ ニコーン(企業価値が10億ドル以上の 未上場企業)であり、新進気鋭のバイ オベンチャーが生産拠点としてタイを 選んだ意義は大きい。サトウキビや籾 殻などの農産物に大きな価値を付加す る生化学産業は国のターゲット産業の ひとつであり、バイオ分野での人材教 育への貢献も期待されるところだ。

BCG経済モデルにおいて日本企業 がビジネス機会を探求できる分野はモ ノづくりにとどまらない。再生可能エネ ルギーや省エネ、人やモノの輸送の効 率化など、タイは多様な領域で日本企 業の技術やノウハウを必要としている。 新規投資だけでなく、すでにタイに進 出している製造業・サービス業にも好 機が広がる。環境配慮型事業や課題解 決型事業を手掛ける日本企業は、タイ の新たな国家戦略への参画を検討する Ad価値があるだろう。

## わが补のタイビジネス

#### 日産自動車

#### グリーン技術でBCG経済の実現に貢献

タイと日産自動車の関わりは古く、現地 パートナー企業による輸入販売を始めたの は1950年代にさかのぼります。現地工場 での生産を経て、1975年から新工場にお ける本格的な量産を開始しました。2011年 には、シンガポールに置いていた地域統括 機能をタイに移管。現在はタイ日産や関連 会社社員含め、6.000人以上の従業員を抱 え、アジアの23カ国を管轄する地域本社と なっています。

2019年からはKICKSe-POWERの生産 をスタート。これまでの継続的な投資、またコ スト面などから海外初の次世代電気自動車

の生産拠点としてタイを選びました。同車は 日本市場に逆輸入するほか、インドネシアや シンガポールにも販路を広げており、A SEANへのさらなる展開を計画しています。

タイはカーボンニュートラルが注目される 前からBCGに取り組んできた印象があり、 電気自動車である日産LEAFをいち早く販 売開始しました。単なる自動車供給にとどま らず、電力供給エコシステムをはじめとした グリーン技術の発展に貢献できるよう、力を 入れているところです。タイには日産の技術 を理解する技術者も多く、今後も継続して投 資をしていきます。





タイ日産自動車 社長

關口 勲氏

#### **Spiber**

#### 植物由来の新素材をタイで量産

Spiberは様々な機能を持ったタンパク質 素材を人工的に作る会社です。タイで現地 法人を立ち上げたのは2018年。バンコク 東部のラヨン県にタンパク質の量産プラント を建設し、現在試運転を行っています。

タンパク質の生産には、微生物の餌として グルコースなどの糖が必要です。タイはサト ウキビやタピオカなどの豊富な糖源があり、 量産に適した環境と言えます。進出を検討す る際、「農業資源を生かしてバイオ産業を強 化したいしという政府の意向があり、当社の ビジネスにマッチすると考えました。

初の海外進出にあたり、BOIにはプラント 構想段階から様々なアドバイスをもらい、

具体的なイメージを掴むことができました。 タイにはこれまでに数多くの日本企業が進 出しており、ビジネスのノウハウが蓄積され ています。その恩恵を享受できることは、実 際に進出して分かった大きな利点です。ま た、タイには理系の優秀な人材が多いと感 じます。現在、現地で30名ほど採用し、プラ ントの立ち上げのために尽力してくれてい

まずは迅速かつ安全にプラントを稼働す ること。先々は、タイで培われた技術を諸外 国企業にライセンス提供し、世界中に広く夕 ンパク質素材を供給することを目指してい ます。

BOI 大阪事務所

T541-0056

タイ王国大阪総領事館

バンコク銀行ビル7階

Mail osaka@boi.go.th

Tel +81 6 6271 1395

Fax +81 6 6271 1394

大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-16



初の量産プラントがタイで稼働



Spiber (Thailand) Ltd. 代表取締役

森田 啓介氏

タイのスマートビザとは?



www.boi.go.th

#### BOI (タイ投資委員会) ——首相府傘下の政府機関

- 投資および事業展開に対し、包括的な情報やアドバイスを提供
- 税制上の恩典および税制以外の恩典を付与 投資家へのビジネス支援サービスを提供
- ・外国のビジネス関連機関や民間・その他公的機関との調整

555 Vibhavadi-Rangsit Road,

Tel +66 2553 8111 Fax 1+66 2553 8315 Mail head@boi.go.th

#### BOI 東京事務所

タイ王国大使館経済・投資事務所 T107-0052

東京都港区赤坂2-11-3 福田ビルウェスト8階

Tel +81 3 3582 1806 Fax +81 3 3589 5176

高度技術専門家、投資家、上級幹部、ス タートアップ企業の起業家向けに特別に 創設された新しいタイプのビザ。詳細は ビザ·労働許可証サービスセンターへ。

タイにおいてターゲット産業に従事する

SMART Visa部 ビザ・労働許可証サービスセンター 18th Floor.

Chamchuri Square Building, Phayathai Road, Pathumwan, Bangkok 10330

Tel +66 2209 1109 +66 2209 1110

Web https://smart-visa.boi.go.th

#### BOI バンコク本部

Chatuchak, Bangkok 10900

Mail tyo@boi.go.th